

# 素 顔 拝 見



大学院医歯学総合研究科・  
口腔生命科学専攻・摂食環  
境制御学講座・分化再生制  
御学分野

## 伊 東 達 雄

はじめまして。平成14年5月1日付けで、分化再生制御学分野の助手として就任しました伊東と申します。昨年4月に新設されたこの教室では、最初の助手になりますが、大学院から教室にはお世話になっていたの、今のところその延長のような感じでピンときておりません。

私は、新潟生まれの新潟育ちで、本籍は、父の実家のあった分水町地蔵堂ですが、小・中・高と新潟市内で過ごしました。趣味・特技は特にこれといったものありませんが、学生時代は山歩きを好んでしていたこともあります。また、このところ飲む相手もないので晩酌程度ですが、酒も好きです。

昭和61年に新潟県立新潟高校を卒業し、平成5年に新潟大学医学部を卒業後、新潟大学医学部小児科学教室に入局しました。大学での1年の研修期間の後は、新潟県内外の関連病院で小児科の一

般臨床に従事しており、全く基礎研究といったものとは無縁の生活をおくっていました。それが、大学院で短期間の研究生活もいかなあと思ったのがきっかけで、平成12年に小児科の大学院生として呼び戻されて以来、当時小児科学教室講師だった里方先生（現分化再生制御学分野教授）のもとで主に、遺伝性腎疾患の1つであるアルポート症候群のモデルマウスの解析、治療に関する基礎的研究を行ってきました。そんな3月まで医学部の大学院4年生だった私に、思いがけず助手の話があったのは本年の初めの頃でした。かなりの戸惑いもありましたが、生来楽天的な性格なもので、大学院の修了が決まっていなくても関わらずお受けして今日に至っております。

現在も大学院専任科ということで、相変わらず大学院の延長のような生活を過ごしています。今後の教室の研究展開としては、歯および顎・顔面の発生プログラムの解明とヒトの唇・口蓋裂の原因遺伝子の探索、幹細胞から特定の細胞への分化誘導や歯の再生に向けた技術開発など多岐に渡ります。小人数の教室ですし限界はあると思いますが、今後は教育・研究に力を尽くしたいと思っておりますので、皆様、何卒よろしくごお願い申し上げます。